平成30年度　園長だより NO.43【H30.9.28】

ジャックと豆の木

大分大学教育学部附属幼稚園（ 文責／園長 石川照代 ）

日本一笑顔溢れる運動会に!

昨日、小運動会がありました。まだまだ「遊び」の途中ですから、これから更に遊び込んで、子どもたちの表現へのこだわりや、勝負への意識が高まって、面白くなっていくことでしょう。

それにしても、今年は子どもたちの成長ばかりが目について仕方ありません。運動会などは、昨年との比較がし易いため、成長がとても良く見えるのです。「こんな事までできるようになっていたんだ！」と発見と感動の連続でした。また、年長児は準備係をしますが、これがまた年長の子どもたちの成長を際立たせてくれます。附属幼稚園は、運動会を通して、子どもの成長を促す様々な手立てや保育スキルが、きちんと受け継がれている幼稚園なのです。

さて、昨年の運動会では、保護者のみなさんのマナーの良さにも驚きました。今年も、入構や駐車、場所取り、観覧、兄弟児の把握にご配慮頂き、全ての方が気持ちよく、子どもたちの成長を笑顔で喜び合える運動会になるよう、ご協力をお願い致します。　園長

年中さんは、「まじめ忍者」になりきって、様々な修行をお見せします！かけっこも、走りっぷりが、ハンパないです。元気いっぱいの姿にご注目！

年長さんの、背筋がピンと伸びたりりしい行進姿に、年中さんがうっとり！「アニマルワールド」は、顔の表情も見逃さないで！

年少さんは、先生のまねっこして踊るのがとっても上手！かけっこも最後まで一生懸命走れるんですよ。楽しい運動会にしたいですね！

園長、○○攻撃について考える

最近、年少さんの部屋を訪れると、私は「うんちこうげき～！」を雨あられとお見舞いされる。私がつい「うわ～、やめて～」と大げさに嫌がってみせるものだから、子どもたちは大喜び。一人増え二人増え、女の子も加わり、寄ってたかっての「うんちこうげき～」が始まる。本当は臭くて汚いものだと知っているだろうに、「うんち」だけは、まるでアイドルのように、子どもたちは、その名を連呼するのである。

それにしても、子どもたちはうんちが好きだ。日本一楽しい「うんこ漢字ドリル」なるものが小学生に大人気だというが、子どものうんち好きは、年少時代からなのだと知った。

さて、こんな話をすると、大概のお母さん方は顔をしかめるだろう。「まさかうちの子では？」なんてドキッとされるかもしれない。しかし、子どもは、「うんち」というワードを使って、相手とのコミュニケーションを楽しんでいるだけなのである。つまり、何とかして私と関わりたいのだと思う。だから私は、心から喜ぶべきなのだ。（まあ、できれば違うワードにして欲しいとは思うが。）もし、子どもがお家で「うんちこうげき～」と叫んだとしても、頭ごなしに叱るのでは無く、いつかタイミングを見て、場面や相手によっては控えるべき言葉があることを教えてもらえれば有り難い。

さて、「うんち」もすぐにマネして使う言葉だが、ある日、「バランス」という言葉を、友だちのマネして使う年少さんを見た。（こちらはイングリッシュだから、マネも大歓迎だろうか？）事ほど左様に、子どもは口マネをして遊ぶのである。マネして、使ってみて、相手の反応を見て、その言葉の意味や受ける感じ、使い方を学んでいくのだ。どうしても我慢ならないときには、とっても困った顔をして「その言葉はママはあんまり好きじゃないな。」とでも言っておこう。

とは言え、子どもたちの「うんちこうげき」はしばらくおさまらないと覚悟している。でも、私は、それ程心配していない。なぜなら、いづれ言わなくなる日が必ず来るのだから・・・。